



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
12/9 (月)	▲ 1,200	▲ 10,100	▲ 11,300	国庫短期証券償還 (3M)	国債補完供給 + 4,100		日: 国内総生産 (7~9月期改定) 経常収支(10月) 貿易収支(10月)
12/10 (火)	トン	+ 2,000	+ 2,000	国庫短期証券償還 (6M)			
12/11 (水)	トン	▲ 28,000	▲ 28,000	国債発行 (5年)	共通担保 ▲ 8,000		米: CPI(11月)
12/12 (木)	▲ 1,000	▲ 6,000	▲ 7,000	源泉税揚げ			欧: ECB政策金利発表 ラガルド総裁会見
12/13 (金)	▲ 1,000	+ 74,000	+ 73,000	年金定時払い 流動性供給	貸出増加 ▲ 55,000		日: 日銀短観(12月調査)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比1兆9,900億円減少の541兆1,400億円から始まった。その後、国債発行や税揚げ等の要因により減少し、6日は529兆300億円（速報）で越えた。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.227%から始まった。その後もビッドサイドの調達意欲は底堅く、同金利は横ばい圏で推移した。

ターム物は1W~3W物0.228%~0.390%のレンジ、1M~3M物0.420%~0.610%のレンジで出が見られた。

来週の予定は、国内では、9日に国内総生産（7~9月期改定）の公表、13日に日銀短観(12月調査)の公表、

海外では11日に米CPI(11月)の公表、12日にECB政策金利発表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.220 ~ 0.228
1M	0.35 ~ 0.45
2M	0.35 ~ 0.55
3M	0.40 ~ 0.60
6M	0.50 ~ 0.65

<レポ>

足許GC取引は週を通して+0.24%~+0.25%の出合いが中心となった。輪番オペがオファーされた4日も水準に変化は見られず、狭いレンジで取引が行われた。

SC取引は2年460~467回債、5年149~174回債、10年350~376回債、20年180~190回債、30年65~84回債、40年13~17回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.12 ~ 0.20
CP 3M	0.30 ~ 0.50

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆5,300億円で、週間償還額の1兆200億円を上回った。発行残高は先週末時点の25兆9,087億円から、12月5日時点で26兆4,667億円に増加した。発行市場は、石油製品、電気機器、鉄鋼、卸売業などで大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは銘柄や期間等によりばらつきが見られ、1M物から3M物で、0.25%から0.50%台後半での出合いとなった。12月19日を越える期間の入札案件では、12月の日銀決定会合での追加利上げに対する投資家の警戒感から、投資家が運用金利を見定める局面が続いており、発行レートが上昇している。

来週の償還額は、1兆6,400億円となっている。発行市場は、事業法人の冬季賞与払いや税揚げ要因でのCPの利用が想定され、相応の発行が見込まれる。発行レートは、決定会合を越えない期間のもので政策金利の0.25%に近い水準で推移し、決定会合を越える案件については、0.30%台後半から、レートの上昇余地を探る展開が予想される。

<TDB>

6日の3M (1273回債) の入札は、最高落札利回り0.1583% (前回債0.1434%)、平均落札利回り0.1475% (前回債0.1270%) となった。

来週の入札は、9日に6M、13日に3Mが予定されている。